



「食」と「農」を専門とする東京農業大学の資源を活用して 子どもたちの「冒険心」を育成する。 東京農業大学稲花小学校

東京 23 区内の私立小学校としては 59 年ぶりの新設となった東京農業大学稲花小学校。昨年秋の入試では多くの志願者を集め、その人気ぶりが注目されていましたが、この春ついに開校を迎え、1 期生 72 人の生活とともに、学校の歴史がスタートしました。長らく開校の準備をされてきた、初代校長の夏秋啓子先生に、お話を伺いました。



なつあき けいこ
夏秋啓子 校長

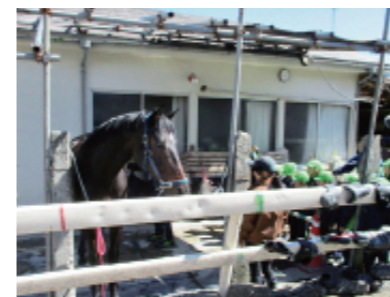
新しい 1 ページが ついに始まりました

2019 年 4 月 6 日、澄み渡る青空と、満開の桜に彩られ、第 1 期生 72 人が東京農業大学稲花小学校の門をくぐりました。準備期間を経て、ようやくその日を迎えた記念すべき本校第 1 回の入学式。児童たちの笑顔と、保護者の皆様の期待に満ちた表情を前に、胸が高鳴るとともに、改めて身の引き締まる思いです。

昨年実施した 1 期生の入学試験では、私たちの想定を超える、非常にたくさんの方の志願をいただきました。志望理由として、面接でお話を伺った範囲では、やはり「東京

農業大学が作った小学校」であることが、声として大きかったと感じています。

創立以来、東京農業大学は、農学や生命科学分野に特化した大学として、教育・研究を行ってまいりました。すなわち、「生き物」や「自然」、「食」に関する学びであり、私たちの生活にもとても身近なテーマが対象です。そして、この農大稲花小が立地する世田谷区周辺は、ことさらそれらに関心の高いご家庭が多いと感じています。東京農業大学では、教授陣による様々な社会人向け講座も行っていますが、いずれも募集開始とともに大半の席が埋まってしまうことも多く、地域の方々と、東京農業大学の「相性の良さ」のようなものは感じていました。私立小学校志向の保護者の皆様が、お子様



A	B	C
D	E	

- A / 4 月 6 日に行われた記念すべき第 1 回入学式
- B / 教室で教科書を受け取る児童たち
- C / 自校方式の給食は 4 月 8 日からスタート
- D / 東京農大の馬術部厩舎を見学
- E / アフタースクールでの科学実験プログラム

の教育において大切にされているていねいな生活感と、「東京農業大学」から想定されるキーワードの一致が、今回、多くの方にご注目いただいた大きな理由だと考えています。

保護者層のライフスタイルを 意識した学校運営

新しく小学校をスタートさせるにあたり強く意識したことは、小学生の保護者層のライフスタイルです。女性の社会参画が進み、フルタイムでお仕事をされているお母様も大幅に増えています。せっかく本校の教育理念や方針に賛同いただいても、ご家庭の生活環境を理由に本校を選択できない状況となるのは損失と考え、いくつかの学校運営に反映しました。

その一つが「アフタースクールの併設」です。特定非営利活動法人「放課後 NPO アフタースクール」に委託する形で、校内を活用した運営をしていただいています。夕方は 18 時 30 分まで、友だち同士で遊ぶですごすだけでなく、スポーツや音楽などの「プログラム」も実施されています。東京農業大学や東京農業大学第一高等学校の教職員や学生と連携した企画もあり、「東京農大らしさ」のあるアフタースクールを運営していただいています。

もう一つは「毎日の給食」です。栄養科学科を擁する東京農業大学の名を冠した小学校として、本校では給食を「食育の時間」と位置付け、毎日、校内の給食室で調

理した温かい給食を提供しています。忙しいご家庭にも、毎日充実した給食があることをメリットと考えていただいているようです。

教育理念「冒険心の育成」 その具現化のために

本校の教育理念「冒険心の育成」は、東京農業大学創設者である、榎本武揚公の言葉「冒険は最良の師である」に基づいています。「冒険」とは、危険なこと、無謀なことに挑むことではありません。初めてのことに挑むことには、強い心と身体、そして様々な知識を準備して臨むこと、これが本校の「冒険」です。児童たちが将来、社会で生きていく力、活躍できる力を養っていく、その基礎を育む必要があります。

また、教育理念が形だけにならないように、「冒険心」をより具体的に、①感性、②探究心、③向上心、④コミュニケーション力、⑤体力の「3 つの心と 2 つの力」に分け、その育成を教育方針としています。そして、これらをさらに「10 の能力」に細分化。各科目の授業においては、その科目の知識・技能だけでなく、この「10 の能力」を児童が習得していくことを前提と

教育指標とする「10 の能力」

- ①興味・関心 ②創造力 ③問題解決力
- ④習得力 ⑤主体性 ⑥目標設定力
- ⑦発信力 ⑧傾聴力 ⑨持続力 ⑩自律力

したカリキュラムを作っています。

体験型活動を重視した 特徴的なカリキュラム

本校のカリキュラムは、東京農業大学の資源も活用した、「生き物」や「食」に関する体験学習を重視しています。世田谷のキャンパスだけでなく、厚木キャンパス、富士農場から、高学年では北海道オホーツクキャンパスや宮古亜熱帯農場の訪問も計画しています。ただ新鮮な体験に触れるだけでなく、子どもたちが主体的に関わり、「なぜ!?! どうして!?!」と深く考えることを大切にし、「10 の能力」を育む重要な機会と位置付けています。

また、英語も授業として、1 年生から毎日 45 分を行います。「言葉」は「冒険心」のフィールドを拓くために不可欠なもの。グローバル化が進むなか、「英語」は子どもたちにとって将来重要なツールになると考えます。同時に、「詰め込み」にならないために、英語に触れる様々な機会を作っています。

学校生活も、各科目の授業も、始まったばかりです。児童たちが学校を好きになり、毎日楽しく通学できること、保護者の期待に応えていくことが第一です。そのためには入学後、児童一人ひとりの状況を見極めつつ、カリキュラムや教育方法もチューンアップしていきます。教職員が一丸となって、新しい学校づくりに全力を注いでいきたいと思っています。